

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第56号(2011.10.31)  
事務局川西地区自主防災会

## —地域と学校との支え合いによって—

土庄町立湊崎小学校 校長 木村 恭之

私たちは3月11日東日本大震災からたくさんの方のことを学ばせて頂きました。不幸にも児童の命を救うことが出来なかった学校もあり、管理職の瞬時の判断が児童・職員の生死につながると改めて痛感した次第です。

本校へ257名の児童が通学しています。私たちは児童の命を守ることを最優先に考え、行動していくことこそ教師の最も重要な責務と考えております。

そのために、今までの防災計画を徹底的に見直し、改善に踏み切りました。

- ①避難訓練を月に1回実施する。
- ②防災頭巾を児童の手で作成する。
- ③教師用のヘルメットを購入する。
- ④電池、ラジオ、緊急地震速報装置等の防災備品の整備をする。
- ⑤最も安全な避難場所を決定する。
- ⑥防災に関する授業を実施する。
- ⑦登下校中の対応、保護者への引き渡し、安否連絡の方法等を明確にする。



本校では23年度より、毎年10月第1土曜日を「湊小防災の日」と決め、保護者・地域・学校と共に防災教育を行い、児童の命を守って行きたいと考えています。防災学習を進めている中で、私は防災の授業を通して児童に知識を、訓練の中で判断力と行動力を身に付けさせたいし、学校独自の訓練に加えて地域との合同訓練も必要であると感じています。

これから、炊き出し、避難所での活動等、多様なイベントを開催していく予定ですが、イベントに保護者や地域の方参加することでコミュニケーション、信頼関係も生まれてくると思っています。単に避難訓練そのものにとらわれることなく、防災を信頼の輪、学校と地域の輪を広げながら防災の輪が一層、広げられたらと考えています。

今年度、実施した「渚小防災の日」の活動をご紹介します。ご一読頂き、ご指導を賜れば幸いです。


「渚小防災の日」－地震・津波に備えて

☆防災授業 ☆避難訓練 ☆勉強会


学校と共に考えませんか

日時	平成23年10月1日(土) 13:00～16:35
場所	渚崎小学校・各教室・運動場他
日程	13:00～防災の授業・・・各教室で ↓ 13:40～避難訓練・・・運動場→避難場所 ↓ 14:45～勉強会・・・体育館



児童・保護者・地域の方と共に避難訓練をします。



○勉強会 講師 岩崎正朔氏  
丸亀市川西地区自主防災会長  
防災功労者 内閣総理大臣賞受賞

渚崎小学校

来年度に小豆郡安全教育研究会を本校で開催します。来年度の研究会では防災教育について具体的な対応等について来校者に提供できると考えています。その節はぜひとも岩崎先生にも来校して頂き、1年後に成長した本校の防災教育の姿を見て頂ければ有り難いと思っています。

災害は忘れた頃にやって来ます。しかし、想定外という逃げ道を作れば児童の命は守れないと思います。我々教師の優先順位は「子どもの命を守る事」それ以外に高い優先順位は存在しないことを肝に銘じて防災教育に取り組んで参ります。

『安きに居たりて、危うきを思う』

## 平成 23 年度防災への取り組み

二番丁地区コミュニティ協議会  
二番丁地区自主防災組織連絡協議会  
会 長 川 口 秀 明

### 1 地区防災訓練の実施

「こちらは、地域の消防団、西部分団です。本日新番丁小学校にて、防災訓練を行います。」という、消防団西部分団の広報車による巡回放送を合図に、平成 23 年 10 月 2 日日曜日午前 9 時より二番丁地区の防災訓練が開始された。

「震度 6 弱の地震」が発生したと想定し、まず自治会ごとに決められた第一避難場所まで避難し、安全確認後、指定避難場所である新番丁小学校に集合しました。地区自治会住民をはじめ、高松市北消防署、高松市北警察署、女性防火クラブ、民生委員児童委員、日赤奉仕団、おやじ会、交通安全母の会など約 600 人の参加がありました。

特に今年度から、高松北警察署の参加（写真 1）もあって、年ごとに参加協力団体が増え地域の連帯感が強化されてきたように感じられました。

今年度の訓練には、負傷者搬送訓練・応急処置の他に、治療の優先順位を決めるトリアージを加えました。地元の医師、看護師の協力により本番さながらの様子に緊迫感があり、医師の「助かる人を助けるためには、……」という説明に、参加者のなかにはうなずきながら災害の悲惨さをあらためて実感した場面もみられました。（写真 2）



（写真 1）



トリアージ（写真 2）



☆可愛い☆

！日赤救助隊 登場！

また、東日本大震災の影響でしょうか避難所開設（写真 3・4・5）や避難所の居住スペースの確保のための段ボールによる仕切り板の組み立て（写真 6）には、関心が多く集まっていました。



避難所到着！！（写真 3）



まず、避難者カードに名前、自治会名を記入  
（写真 4）



避難した人が、わかるようにするため貼  
りだします。（写真 5）

この担当には、高松市災害時指定職員が  
中心になって、担当してくれました。

仕切り板組み立て（写真 6） ↓



最後の訓練は、炊出し訓練です。  
今年も好評のうどんです。  
高齢者・子ども優先です。

その他の訓練には、住民の連帯感を強めるバケツリレー（写真7）や心肺蘇生 AED の使い方訓練、（写真8）消火器の使い方なども手を抜かず毎年実施しています。



（写真7）



（写真8）

## 2 視察研修の実施

今年は、東日本大震災の発生のため、防災への関心が深いですが、時間が経つとともに、忘れがちになってしまいます。高い防災意識を保つために、今年9月15日に自主防災会を中心に40名で神戸の「人と防災未来センター」と北淡震災記念公園に行ってきました。（写真9）



北淡震災記念公園（写真9）

## 3 今後の取り組み



（写真10）

二番丁地区では、今年度も香川大学危機管理研究センターの協力により、「二番丁コミュニティ継続策定プロジェクト」と題し、情報伝達避難訓練を実施するため2つの自治会が住民を集めワークショップを重ね、災害時の被害をいかに最小限にするか検討しています。（写真10）12月4日には、実際に訓練を実施する予定になっています。

10月はお祭り一色の讃岐路でしたが、私も三つの神社の氏子責任総代としてお世話をさせていただきました。その概要を少しご紹介します。

## (1) 川西天満宮の祭礼

10月4日～5日

菅原道真公が讃岐の国司として赴任し、4年間の在任中農作物の出来栄えなどの視察においていただき、そのご縁からこの地に天神さんと称して氏子100世帯で祭祀を営んでいます。



## (2) 稻荷神社の祭礼

10月13日～14日

ことの始まりはいろいろ言われておりますが、この近くにありますが「稻荷出水」が約250世帯の田畑に影響していることもあって、その氏子たちによって祭祀を営んでいます。

## (3) 八幡神社の祭礼

10月15日～16日

今より941年前の「延久元年」の創建であり、小川郷（現在の丸亀市飯山町東小川地区と丸亀市川西町南地区）

全体の氏神です。現在は氏子の中を土器川が割って入った状態ですが、400年前は八幡神社の東側を流れ、飯野山の東を通過して坂出市川津を経て瀬戸内海に流れ込んでいたようです。氏子



数約700世帯において祭祀を営んでいます。尚、この祭礼行事の直会料理はすべて自主防災会の女性会員（4名）によって作られました。

## 編集後記

今月の防災減災の輪は、今春湊崎小学校に着任以来、積極的に「命の大切さ」を小学校授業に展開している木村校長先生と、10月2日（日）大掛かりな地域防災訓練を実施した、高松二番丁地区防災会長川口秀明さんほか役員の皆様のご協力をいただき発刊することができました。誠にありがとうございました。